

保険薬局におけるインスリン適正使用についてのアンケート調査

石川県 社団法人石川県薬剤師会 てまり下牧薬局

○釜田 真沙美、山口 弘美、橋場 万理美、安田 圭子、橋本 昌子

【概要および目的】糖尿病は長期にわたる治療が必要となるため患者自身による自己管理が重要である。保険薬局においてはインスリンの使用について手技の各々を確認するのは難しい部分もあるが、インスリンは適正に使用されるよう指導する必要がある。今回はインスリンを使用中の患者に対して 適切な取り扱いがなされているかを調べるためアンケート調査を行い、インスリン適正使用の再確認を行った。

【対象および方法】

平成 21 年 8 月 17 日～平成 21 年 8 月 31 日にてまり下牧薬局、てまり薬局、てまり涌波薬局の 3 薬局で調剤し、投薬を行ったインスリン使用中の患者 20 名（男性 13 名、女性 7 名）に対し、「インスリン適性使用についてのアンケート」を行い、その結果について統計をとった。患者 20 名の平均年齢は 67 才、20 名のうち懸濁製剤使用中の患者は 8 名（男性 5 名、女性 3 名）であった。アンケートの内容は下記の通りである。

【結果】

インスリン適正使用についてのアンケート

- ① 注射針は、毎回 取りかえていますか？ はい 16 名（80%）、いいえ 4 名（20%）
- ② 使用済みの注射針は、病院または薬局に持っていっていますか？
はい 20 名（100%）、いいえ 0 名
- ③ 空打ちは、毎回 行っていますか？ はい 14 名（70%）、いいえ 6 名（30%）
- ④ 注射時、注入ボタンを押してから 10 秒間そのままの状態ですか？
はい 16 名（80%）、いいえ 4 名（20%）
- ⑤ 針を抜くときは、注入ボタンを押したまま 抜いていますか？
はい 16 名（80%）、いいえ 4 名（20%）
- ⑥ 未開封のインスリンは冷蔵庫で保管していますか？
はい 18 名（90%）、いいえ 2 名（10%）
- ⑦ 開封後は室温で保管していますか？
はい 16 名（80%）、いいえ 3 名（15%）、未回答 1 名
- ⑧ 開封後は 1 か月以内に使い切っていますか？ はい 20 名（100%）、いいえ 0 名
（懸濁製剤を使っている方）
- ⑨ 使用前に インスリンを均一に混ぜていますか？ はい 8 名（100%）、いいえ 0 名
- ⑩ 12 単位以上残っていることを確認していますか？
はい 5 名（62.5%）、いいえ 2 名（25%）、未回答 1 名

*アンケート④は 6～10 秒の範囲にあった場合は「はい」とした。

【考察】今回のアンケート（対象患者は 20 名）では②全ての患者が使用済み注射針を病院・薬局に持参していたが、①20%の患者が注射針を毎回 取りかえていなかった。これは注

射器の不具合や感染のおそれがある。アンケート③～⑤は自己注射の手技の確認であるが、③30%の患者が空打ちを行っていなかった。また④⑤ではそれぞれ20%の患者が「いいえ」と答えており、インスリンの単位数が正しく注射されない可能性があると思われる。アンケート⑥～⑧はインスリンの保管方法および使用期限の確認である。⑥10%の患者が未開封のインスリンを冷蔵庫で保管していなかった。また⑦15%の患者が開封後は室温で保管していないという結果となり、これも注射器の不具合やインスリンの変性がおこる可能性がある。⑧開封後の使用期限についてはすべての患者が1か月以内に使い切っていた。⑨⑩は懸濁に関する質問で、⑨全ての患者が使用前にインスリンを均一に混ぜていたが、⑩25%の患者が12単位以上残っていることを確認していなかった。

【まとめ】今回のアンケート調査では、予想以上に多くの患者がインスリンの取り扱いや使用方法に関して間違った認識をしており、患者もまたそのことをあまり重要にとらえていないように感じられた。患者が高齢であるため理解が難しいということもあるかもしれないが、適正に使用されないことは糖尿病の症状悪化につながり危険である。これらのことから保険薬局においても今後は適切な取り扱いと使用方法を定期的に指導していく必要があり、また、高齢者等でも理解できるような分かりやすい指導方法を考えていかなければならないと思われる。